



TITLE:

# 「京都大学図書目録作成電算化に伴う講習会」の報告

AUTHOR(S):

---

CITATION:

「京都大学図書目録作成電算化に伴う講習会」の報告. 静脩 1990, 27(2): 15-15

ISSUE DATE:

1990-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/37085>

RIGHT:

## 「京都大学図書目録作成電算化に伴う講習会」の報告

1)

附属図書館では、平成2年の2月～7月のあいだ、標題の講習会を8回にわたって実施した。

対象者は全学の図書系職員であり、申込希望者は81名、途中の異動などにより合計74名が修了した。

本学の図書館目録は、昭和60年(1985)から電算化を開始し、現在は本館ほか数部局で、学術情報センターに接続して、目録情報の登録を行っている。

平成2年1月には、附属図書館のホストコンピュータが新しくなり、処理能力が向上したので、108台のターミナルが本館および各部局に配置された。

今回の目録システム講習会は、これにともない、各目録業務担当者が円滑に目録情報登録を進められることを目的として、開催されたものである。

2)

講習会は1人あたり、1週間を単位として、概論を3時間、実習を10時間わりあてた。

概論では、学術情報センターおよび本学の目録システムの構造についての講義を行った。

実習では、要点の講義と実際にターミナルに向かっての作業とを組み合わせた。内容としては、[検索、登録、点検、修正]の一連の仕事を、自力で行えるようになることを、めざした。

実際の実習指導は、附属図書館の和洋目録情報掛員が担当した。受講者に対しては、おおむね1

対1で対応したため、きめ細かな説明が可能となり、この点が特に好評であった。

受講者は、実務担当者が大多数であり、質問も多数出された。

3)

ここで、受講者の感想をいくつか紹介することにより、講習会の雰囲気伝えておきたい。

「学術情報センターのシステムと本学のシステムとの関係がよく分からない」、「コマンドの使い方や用語が難しい」

これらは、カード式目録とは異なった概念を持つ、電算化システムへの戸惑いや不安の声と、とらえている。

一方で、「重複書誌を作らないことの大切さを認識した」、「新規に登録するのは大変な仕事である」など、目録情報を全国の大学図書館で共有しようとする、このシステムの理念への理解も得られた。

4)

今後は、各受講者が業務にあたって、講習会での成果を実地に活かされることを期待する。

平成2年9月26日

附属図書館情報管理課  
和書目録情報掛長

奥典子

洋書目録情報掛長

谷口敏夫

---

## 秋季展示会「和漢書古典籍のさまざま」へのご案内

附属図書館では下記の要領で秋季展示会を開催します。

テーマ 「和漢書古典籍のさまざま」

期 間 : 平成2年11月27日(火)から12月7日(金)

(日曜日・月末休館日(11/30)を除く)

時 間 : 午前9時30分から午後4時30分

場 所 : 附属図書館展ホール(3F)

(一般公開・無料)